

「さやま楽友会」(さやま市民大学同窓会)主催講座

『戦国 SENGOKU 秘話と謎』 (3回シリーズ) 講師：岳 真也先生

開催日	1回目:令和4年4月11日(月) / 2回目:4月18日(月) / 3回目4月25日(月)
開会時間	3回いずれも14:00~16:00 (休憩、質問時間あり) 開場 13:30
会場	狭山市民交流センター1階コミュニティホール (狭山市駅西口)
受講料	3,000 円(3回シリーズ一括 / 当日受付若干名可能、1,300 円/1回) 定員 50 名

◎ベストセラー『吉良の言い分』『関ヶ原合戦「武将」たちの言い分』、最新刊『光秀の言い分』など、日本史に登場する武将、悪役、そして女性を独特な切り口で描いてきた歴史小説家の岳真也(がくしんや)先生を講師にお招きして、権力亡者・裏切り者・敗者と言われてきた人物の謎や闇に迫りながら、真説日本史を解き明かします。信長・秀吉・家康の三傑に関する秘話のほか、「戦国時代のワルたち」をも取り上げていきます。明智光秀、斎藤道三、今川義元、松永久秀(弾正)、筒井順慶、朝倉義景、小早川秀秋、織田有楽斎なども舞台上げ、絶大な権力者を相手に、ときに従い、ときに負けつつもしぶとく歴史に名を残した武将たち。その真相について語っていただきます。

◎そして今回の講座では、天下を競いお互いにシノギを削る男たちの陰で、濃姫やお市の方、淀君など、大波に揺られながら、たくましく生き、消えていった女性たちの生き方を探ります。激動の歴史の中で、最後まで生きぬき天下をとった戦国の女たち。現代の私たちも勇気づけられることが多いと思います。

【講座各回のテーマ】

↓「利休を超える戦国の茶人・織田有楽斎」の視座から眺める戦国 SENGOKU の実像

第1回目・・・明智光秀、織田信長、豊臣秀吉そして徳川家康の秘話と謎。本能寺の変は、それぞれの間に密約があった？ 信長の同盟者・家康は、妻子を死に至らしめた信長を許してはいなかったなど、本能寺の変を中心に、真説・戦国史とその周辺に浮き沈みした武将たちの姿を語っていただきます。

第2回目・・・築山殿に、お市の方とその娘たち、淀君、お初、お督(江)の三姉妹、そして春日局など戦国の女性たちの生きざまを語っていただきます。

第3回目・・・織田信長の弟、織田有楽斎は利休を超える戦国茶人として長寿を全うした。「うつけの三郎(信長)」に「へたれの源吾(有楽)」と言われた兄弟の若き日から、秀吉の時代を経て関ヶ原合戦・大坂の陣に至るまで、戦国の光と闇を見つめます。

➡ 最後の最後に、有楽斎がみた「信長が語りかける夢」とは？

【講師プロフィール】



岳 真也(がく しんや)

日本文芸家協会理事、全国同人雑誌協会参与。虎希の会会長。

1947年、東京に生まれる。慶應義塾大学経済学部を卒業、同大学院社会学研究科修士課程修了。同66年、学生作家としてデビューし文筆生活50年、著書約160冊。2012年、第一回歴史時代作家クラブ賞実績功労賞を受賞。

代表作は『水の旅立ち』(文藝春秋)、『福沢諭吉(全三巻)』(作品社)。近年、歴史時代物に力を入れ、忠臣蔵の定説を逆転させた小説『吉良の言い分 真説・元禄忠臣蔵』(KSS出版のちに小学館文庫)はベストセラー。『吉良上野介を弁護する』(文春新書)、『日本史「悪たちの言い分」』(PHP文庫)はロン

グセラーとなった。ほかに『北越の龍 河井継之助』、『麒麟 橋本佐内』(ともに角川書店のちに学研 M 文庫)。『土方歳三 修羅となりて北へ』(学研のちに同 M 文庫)。『此処にいる空海』(牧野出版)などがある。最近刊は『今こそ知っておきたい災害の日本史』、『徳川家康』(ともにPHP文庫)。『行基 菩薩とよばれた僧』(角川書店)。『光秀の言い分 明智光秀好きなので』、『利休を超える戦国の茶人 織田有楽斎』(大法輪閣)、私小説『翔 wing spread』(牧野出版)を出版、同書は第1回加賀乙彦推奨特別文学賞を受賞。

【受講申し込み】別紙「受講申込書」にご記入のうえ同窓会役員まで。

または、PC メール ntbkc196@yahoo.co.jp / Tel 080-6548-4599 (六車) まで。